

西光寺だより

第二三二号 令和二年 十月一日発行

◆先月の報告◆

①九月十七日（木）大谷本廟にてみのり講・穂積講の墓参に行きました。コロナ禍ということもあり少人数でありましたが、こういう時だからこそ味わうことのできる貴重な時間を過ごしてまいりました。皆様ありがとうございました。



②九月十八日（金）水尾の勝光寺にて、茨木東組組会を行いました。

こうして他の寺院僧侶の方々に会うのも久しぶりのことであり、特別な思いで参加いたしました。

そしてこの日は千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要の日であり、皆さんと平和の思いで鐘を鳴らし、正信偈のお勤めをいたしました。その後、今年度の報告・予定などを協議し、話し合ったことでもあります。

浄土真宗本願寺派（西本願寺）では、戦争によって尊いのちを失われたすべてのの方々を追悼し、悲惨な戦争を再び繰り返してはならないという平和への決意を確認するため、一九八一（昭和五六）年から毎年、東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、「全戦没者追悼法要」を勤修いたしており、戦後七五年にあたる本年、第四〇回目を迎えました。

毎年お勤めしている九月十八日は、十五年にわたる「アジア・太平洋戦争」につながっていった「満州事変」の発端である「柳条湖事件」が一九三一（昭和六）年に起こったその日であります。国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑は、一九五九（昭和三四）年に建てられた国立の墓苑で、主に「アジア・太平洋戦争」で亡くなられた軍人から民間人にいたるまでの、ご遺族のもとに帰ることのできなかった約三五万の方々のご遺骨が納められています。それらの経緯からしても、この墓苑は、国籍・思想・信条などを超えて、全ての戦没者を追悼するに相応しい厳粛にして大切な場所であると言えます。

しかしながら、本年法要につきましては、新型コロナウイルス感染の状況を鑑み、参拝者の皆様の安全を最優先し、関係者のみでお勤めさせていただきました。そして恒久平和への願いを新たにすするため、「平和宣言」を行い、「平和の鐘」を撞き、全国各地でも一斉に鐘が撞かれました。

今回の組会は、その法要に合わせて厳修致しました。

そして会所となった勝光寺の梵鐘は、一七〇六（宝永三）年の铸造で、勝光寺の歴史と寺にまつわる幾つかの興味深い伝説やエピソードが銘として刻みこまれています。太平洋戦争時、寺院の梵鐘は金属供出で没収されましたが奇跡的にも解体铸溶される直前に終戦となり、四国で野ざらしとなっていたところ、鐘の刻銘を読んだ人から勝光寺に連絡が入り無事回収されたものであります。

茨木の寺院で古くから伝えられた由緒ある梵鐘は戦争の犠牲となり、現存する梵鐘の殆んどは戦後铸造されたものであります。その中で、この梵鐘は歴史を物語る唯一の梵鐘であります。〈癒し散策 茨木の寺院 より〉

今も戦争について語られる方が少なくなっている中、この鐘の存在ごと、歴史を語っているのだと知った時、改めてその時代の歴史の上に今があると、いうことに気づかされたことでもあります。

鐘の音を聞きながら命の尊さにふれ、手を合わさずにはおれない時間を過ごしたことでありました。

合掌



③九月二十三日（水）西光寺本堂にて仏教婦人会報恩講法要を厳修致しました。少ない中での勤め、改めて親鸞聖人のご法事をご婦人方とともに正信偈のお勤めをし、過ごしたことであります。ありがとうございました。



◆十一月・十二月の行事◆

・十一月 二十三日（月・祝）

報恩講法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎布教使 和氣 秀剛 師

※なお、感染症対策のため変更になるかもしれません。

ご了承のほどよろしくお願いいたします。

・十二月 三十一日（木）

除夜の鐘

午後十一時五〇分

西光寺鐘楼

※なお、感染症対策のため変更になるかもしれません。

ご了承のほどよろしくお願いいたします。